

令和五年度 三年 国語 定期テストⅡ

組 番 名前

【注意事項】

- 1 開始の合図があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は七まであり、2ページから14ページに印刷されています。
- 3 答えは、解答用紙の決められた欄に、楷書で丁寧^{ニギハヤシ}に記入しなさい。
- 4 記述して解答する場合は、解答欄からはみ出さないように、はつきり書き入れなさい。
- 5 解答用紙にマス目がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒におかず、句読点などは次の行の最初のマス目に書きなさい。
- 6 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。
- 7 次の授業にこの問題用紙を持ってくること。

① 次の一線部の漢字の読み方をひらがなで、ひらがなやかたかなを漢字で書きなさい。送り仮名がある場合は、送り仮名もひらがなで書きなさい。【1点×15】(知・技)

- ① 俳句は韻文だ。 ② 外国の戯曲。 ③ 秀逸な論文。 ④ 山奥の溪谷。 ⑤ 計算が狂う。
⑥ ショウケイの念。 ⑦ キツキンの課題。 ⑧ 席をゆずる。 ⑨ 財務省のカンカツ。 ⑩ わずかな数。
⑪ ギセイを払う。 ⑫ ボンヨウな作品。 ⑬ 大国にレイゾクする。 ⑭ 条約のヒジユン。 ⑮ 花瓶に花をさす。

② 次の①～⑤の各文中の一線をつけたひらがなやカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字をふくむものを、あとのア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。【1点×5】(知・技)

① つばさを広げる。

ア 飛行機のシユヨク。

イ エネルギーをヨクセイする。

ウ ショクヨクがない。

エ ヨクジツから夏休みだ。

② 建物のホウカイ。

ア 空中にただよう。

イ 身を引きしめる。

ウ 岩山がくずれる。

エ 子供がさわぐ。

③ 一位をねらう。

ア 人類のソセン。

イ 敵をソゲキする。

ウ 仲間からソガイされる。

エ 反乱をソシする。

④ 野球にさそう。

ア ナイユウガイカン。

イ ユウワクに負ける。

ウ ユウシユウな人材。

エ ユウズウが利かない人。

⑤ 旧友にソウグウする。

ア 先生にあう。

イ みんなで協力しあう。

ウ 彼とは趣味があう。

エ 災難にあう。

③ 次の文法に関する各問いに答えなさい。【15点】

問一 次の一線部の品詞名をあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。【1点×5】(知・技)

日本語の「批判」という言葉は、粗探しをする、文句を言うというイメージが強いです。①しかし本来、「批判」とは、物事について冷静に考え、認めるべき点と認められない点を見分けて判断する②ことです。

(中略)批判的に読むことは、ものの見方や考え方を広げ、③深めます。現代社会を④たくましく⑤豊かに生きていく力強い読み手になるために、ぜひ身につけたい読み方です。

ア 名詞	イ 動詞	ウ 形容詞	エ 形容動詞	オ 連体詞
カ 副詞	キ 接続詞	ク 感動詞		

問二次の「線部の文節はどのようなはたらきをしているか。次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。」

【1点×5】(知・技)

- ① 走ったので、電車に間に合った。
- ② 公園の近くに美しい花がたくさん咲いた。
- ③ 先生、質問があります。
- ④ 大きな鳥が木の枝で鳴いている。
- ⑤ 祖父は苦しかった戦争の体験を話した。

ア 主語 イ 述語 ウ 修飾語 エ 接続語 オ 独立語

問三次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。【1点×5】(知・技)

私は「最も季語が効果的に使われている句」はどれかという観点で俳句を読み比べ、「万緑の中や吾子の齒生え初むる」を選んだ。

①この句は「万緑」が季語の夏の句である。万緑とは、②辺り一面に緑が広がっていることを表している。もし、③これが「万緑」ではなく「新緑」だったとしたら、④生えかけの白い歯と木々の若々しさのイメージが強く、対比は弱くなる。「万緑」の深い緑色が力強さの象徴であり、わが子の白い歯と対比することで、対照的な「一面の緑」と「小さな白」の色鮮やかさがいつそう引き立つのである。

(中略)

もう一度季語に着目して全ての句を⑤読み返してみると、やはり「万緑の」の句は他のどの句よりも季語が句全体の力強さと色鮮やかさを引き立てている。よって、「万緑の」の句が最も季語が効果的に使われているといえよう。

- (1) ①「この句は「万緑」が季語の夏の句である」について、文節の数を漢数字で書きなさい。
- (2) ②「辺り一面に」が直接かかっている連文節を書き抜きなさい。
- (3) ③「これ」の名詞の種類を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 普通名詞 イ 固有名詞 ウ 数詞 エ 形式名詞 オ 代名詞

- (4) ④「生えかけの白い歯と木々の若々しさのイメージが強く、対比は弱くなる」について、自立語に――、付属語に――を抜きなさい。
- (5) ⑤「読み返してみる」の文節どうしの関係を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 主語・述語の関係 イ 修飾・被修飾の関係 ウ 並立の関係 エ 補助の関係

【四】 次の文章を読んで各問いに答えなさい。なお、本文には一部省略したところがある。【21点】

昼休みの教室には、机をくつつけたいくつもの島ができていた。大陸と呼びたいような大所帯もある。中学の給食の時間とは違う。めいめい仲の良い相手と昼食をともにすることができるといえる。

入学式から半月以上過ぎた。僕は教卓の近くの、机みつつ分の島にいる。宮多を中心とする、五人組のグループだ。

宮多たちは、にやんこなんとかという僕の知らないスマホゲームの話で盛り上がっている。猫のキャラクターがたくさん出てきて戦うのだという。ゲームをする習慣がないから、意味がよくわからない。さっきからぜんぜん会話に入れない。課金とかログインボーナスという単語が飛び交っている。もう、相槌すら打てなくなっている。

祖母の顔を思い出して、懸命に話についていこうとした。だって友だちがいないのは、よくないことなのだ。家族に心配されるようなことなのだから。

「なあ、松岡くんは」

宮多の声が、①途中で聞こえなくなった。ふいに高杉くるみが視界に入ったから。

世界地図なら、砂粒ほどのサイズで描かれる孤島。そこに彼女はいた。箸でつまんだたまごやきを口に運んでいる。唇の両端がきゅっと持ち上がった。虚勢を張るわけでもなく、おどおどするでもなく、たまごやきを味わっている。その顔を見た瞬間「ごめん」と口走っていた。

「え」

「ごめん。俺、見たい本あるから席に戻るわ」

ぽかんと口を開ける宮多たちに、背を向ける。

図書室で借りた、世界各国の民族衣装に施された刺繍を集めた本を開く。宮多たちがこの本に興味を示すとは到底思えない。わかってもらえないわけがない。ほんとうは「明治の刺繍絵画名品集」というぶあつい図録がよかった。残念ながらそちらは貸出禁止になっていたのだ。どのように糸を重ねてあるか、食い入るように眺める。ここはこうなって、こうなって。勝手に指が動く。

ふと顔を上げると、近くにいた数名がこっちを見ていた。男女混合の四人グループのうちのひとりが僕の手つきを真似て、くすくす笑っている。

「なに？」

自分で思っていたより、大きな声が出た。他の島の生徒たちが気づいて、こちらに注目しているのがわかった。宮多たちも。でももう、あとには引けない。

「なあ、なんか用？」

まさか話しかけられるとは思っていなかったのか、ひとりがぎょっとしたように目を見開く。②その隣の男子が「は？なんなん」と頬をひきつらせた。

「いや、なんなん？そっちこそ」

べつに。なあ。うん。彼らはもう何も言ひ合ひ、視線を逸らす。教室にざわめきに戻る。遠くで交わされるひそやかなささやきや笑い声が耳たぶをちりつと掠めた。

校門を出たところでキヨくん、と呼ばれた。振り返ったその瞬間に、強い風が吹く。

キヨくん。小学校低学年の頃のままだに、高杉くるみは僕の名を呼ぶ。当時は僕も彼女を「くるみちゃん」と親しげな感じで呼んでいたのだが、学年が上がるにつれて会話の機会が減り、今ではもうどう呼べばいいのかわからない。

「高杉さん。くるみさん。どっちで呼んだらええかな？」

「どっちでも。」

名字が高杉というだけで塾の子らに「晋作」と呼ばれていた時期があつて嫌だった、なので晋作でなければ、なんと呼ばれても構わないらしい。

「高杉晋作。嫌いなん？」

「嫌いじゃないけど、もうちょい長生きしたいやん」

「なるほど。じゃあ……くるみさん、かな」

歩いていると、グラウンドの野球部やサッカー部の声がどんどん遠くなっていく。今日は世界がうつすらと黄色くて、遠くの山がぼやけて見えた。春はいつもそうだ。すべての輪郭があいまいになる。

「あんまり気にせんほうがええよ。山田くんたちのことは」

「山田って誰？」

僕の手つきを真似て笑っていたのが山田某らしい。

「私らと同じ中学やったで」

「覚えてない」

個性は大事、というようなことを人はよく言うが、学校以上に「個性を尊重すること、伸ばすこと」に向いていない場所は、たぶんない。柴犬の群れに交じったナポリタン・マスティフ。あるいはボメラニアン。集団の中でもてはやされる個性なんて、せいぜいその程度のもんだ。犬の集団にアヒルが入ってきたら、あつかいに困る。

アヒルはアヒルの群れに交じれば見分けがつかなくなる。その程度のめずらしさであっても、学校ではもてあまされる。浮く。

くすくす笑いながら仕草を真似される。

「だいじようぶ。慣れてるし」

（中略）

じゃあね。その挨拶があまりに唐突でそつけなかつたので、怒つたのかと一瞬焦った。

「キヨくん、まっすぐやろ。私、こつちやから」

川沿いの道を一步踏み出してから振り返った。ずんずんと前進していくくるみの後ろ姿は、巨大なリュックが移動しているように見えた。

石を磨くのが楽しいという話も、石の意思という話も、よくわからなかった。わからなくて、おもしろい。わからないことに触れるということ。似たもの同士で「わかるわかる」と言い合うより、③そのほうが楽しい。

ポケットの中でスマートフォンが鳴って、宮多からのメッセージが表示された。

「昼、なんか怒ってた？もしや俺あかんこと言つた？」

違う。声に出して言いそうになる。宮多はなんにも悪いことをしていない。ただ僕があの時、気づいてしまっただけだ。自分が楽しいふりをしていることに。

いつも、ひとりだった。

教科書を忘れた時に気軽に借りる相手がいなのは、心もとない。ひとりではつんと弁当を食べるのは、わびしい。でもさびしさを（ま）かすために、自分の好きなことを好きではないふりをするのは、好きではないことを好きなふりをするのは、もっともつとさびしい。

好きなものを追求めることは、楽しいと同時にとても苦しい。その苦しさに耐える覚悟が、僕にはあるのか。

④文字を入力する指がひどく震える。

「ちやうねん。ほんまに本読みたかっただけ。刺繍の本」

ポケットからハンカチを取り出した。祖母に褒められた猫の刺繍を撮影して送った。すぐに既読の通知がくる。

「こうやって刺繍するのが趣味で、ゲームとかほんまはぜんぜん興味なくて、自分の席に戻りたかった。ごめん」

ポケットにスマートフォンをつこんだ。数歩歩いたところで、またスマートフォンが鳴った。

「え、めっちゃうまいやん。松岡くんすごいな」

⑤そのメッセージを何度も繰り返し読んだ。

わかってもらえるわけがない。どうして勝手にそう思いこんでいたのだろう。

今まで出会ってきた人間が、みんなそうだったから。だとしても、宮多は彼らではないのに。

いつのまにか、また靴紐がほどけていた。しゃがんだ瞬間、川で魚がぱしゅんと跳ねた。波紋が幾重にも広がる。太陽の光を受けた川の水面が風で波打つ。まぶしさに目の奥が痛くなって、じんわりと涙が滲む。

〈寺地はるな『水を縫う』より〉

問一 ― ①「途中で聞こえなくなった」とあるが、それはなぜか。四十字以内で答えなさい。【6点】(思・判・表)

問二 ― ②「その隣の男子が「は？なんなん」と頬をひきつらせた」とあるが、隣の男子の様子の説明として最も適するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。【3点】(思・判・表)

ア 僕が大きな声を出したことで多くの生徒から注目されたので、あせっている様子。

イ 僕にまさか話しかけられるとは思っていなかったたので、驚いておびえている様子。

ウ からかった相手である僕が予想外に話しかけてきたので、不快に思っている様子。

エ 僕が大きな声で話しかけてきてくれたので、思いがけずうれしく思っている様子。

問三 ― ③「そのほうが楽しい」とあるが、何が楽しいのか。本文中から十六字で書き抜きなさい。

【3点】(思・判・表)

問四—④「文字を入力する指がひどく震える。」とあるが、このときの「僕」の気持ちを五十字以内で説明しなさい。【6点】(思・判・表)

問五—⑤「そのメッセージを何度も繰り返し読んだ。」とあるが、このときの「僕」の気持ちの説明として最も適するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。【3点】(思・判・表)

ア 自分の趣味をわかってもらえないと思っていたのに、受け入れてもらえたことに驚き、うれしく思う気持ち。
イ 宮多のほめ言葉をそのまま受け入れることができず、本心なのかどうかを確認せずにはいられない気持ち。
ウ 宮多に自分の趣味を分かってもらええると思ったが、おだてるような返信だったことにかかりする気持ち。
エ 宮多が自分の刺繍をほめてくれた理由がわからず、喜ぶべきかどうかの判断がつかずに困惑する気持ち。

人間が思考するというのは、情報と知識を照らし合わせたり繋ぎ合わせたりして何らかの意味合いを紡ぎ出す行為であるが、そうした情報および知識という思考の材料は「言葉」になっていてこそ思考の材料たり得るのである。

したがって、論理的思考を良く行うためには、考える対象の意味内容を適切に言語化することが必要不可欠となるのである。

①適切な言語化の第一歩は、思考の対象としようとする事象（モノやコトや様子）を正確に表す言葉を探し、選択することである。

たとえば眼前一面に咲いている黄色い花に対して、「菜の花」という言葉ではなく「花」という言葉を選択して認識してしまったとしても、それは目の前の黄色い花を表す言葉として間違いではない（木の実」とか「ドーナツ」とかを選ぶと間違いである）が、「菜の花」という言葉と比べると正確性に劣る。「花」というだけでは、その植物が食べられるかどうかや、油を搾れるかどうかは分からないし、チョウチョが飛んでくるかどうかとは想起できたとしても、それがアゲハチョウなのかモンシロチョウなのかは分からない。

A、空に浮かぶうろこ雲を見て、「うろこ雲」という言葉で認識するのと単なる「雲」と認識するのでは、その言葉の持つ意味内容を他の情報や知識と繋げて得られる意味合いは大きく違ってくる。単なる「雲」という認識であれば、雨の可能性や曇り空、あるいはどんよりとしたイメージが広がっていくが、「うろこ雲」ならむしろ爽やかな秋晴れの空を思い出す。つまり、単なる「雲」という言葉から得られる意味合いは「雨が降る前の予兆」かもしれないが「うろこ雲」からは「雨が降らない秋晴れの空」と、真逆の意味合いに繋がるのである。

このように、思考の対象となる事象の実相／実体を過不足なく言い表す言葉を探し出し、選び取ることで、正しい思考のための適切な言語化の第一歩なのである。

こう説明すると、正確な言葉探しはそれほど難しいスキルではないように感じるかもしれないが、意外に②厄介な側面もある。自然言語は、多義性を持つからである。

たとえば、「ネコは人懐っこい動物である。」という表現は、人間の膝の上に乗ってきて甘えるネコや、ゴロゴロと喉を鳴らしてすり寄ってくるネコのイメージを想起させて、多くの人が共感・共有できる意味内容であろう。しかしその一方で、「ネコは人に懐かない動物である。」という表現も、多くの人が共感をもって納得できると思われる。街でネコを見かけてもサッサと逃げて行くし、飼ひ猫ですら名前を呼んでも近寄って来なくて当然という面もある。つまり、「ネコは人懐っこい動物であり、人に懐かない動物である」という（注）命題表現が成立することになり、これを数学的に表すと「 $A \parallel B$ かつ（注） $A \neq B$ である」ということになってしまう。「ネコは人懐っこい動物であり、人に懐かない動物である」という表現は詩的には理解できるものの、論理的思考を行いたがら論理を展開していく上で混乱や（注）誤謬をきたす原因となる。

このような混乱や誤謬は、「言葉の多義性」によるものである。ネコという誰でもよく知っている対象です

ら、「懐く／懐かない」、「ライオンと比べると小さい／（文鳥と比べると）大きい」等々、多様な意味内容やイメージを持っている。したがって、ネコを対象にした論理展開を進めていく際に、様々な意味内容の断片が全然別の方向に繋がって行つて、收拾のつかない論理展開になってしまう可能性があるのである。

とはいえ、③自然言語の言葉の多義性は思考を行う上で極めて重要な性質である。思考とは、対象の持つ意味内容の要素と、知識として保有している事象の持つ意味内容の共通部分とで意味的なジョイントがなされて、論理および推論を展開していく作業である。つまり、ある一つの思考対象が持つ意味内容を一つだけに限定しないからこそ様々な知識と繋がり得るのであり、言葉の多義性があるからこそ、豊かで広がりを持った論理展開が可能になるのだ。

もし先に挙げたような言葉の多義性から生じる論理矛盾を避けようとする、 $A \parallel B$ とか $C \neq D$ というように命題の意味内容を一義的に限定する数学的思考しか成立しなくなる。このような思考世界では、論理展開によつて真か偽かの命題展開、数式展開は可能であっても、ネコやご飯や思い出といった現実世界の重要な事象や概念を論理的思考の材料とすることができなくなってしまう。④論理的に（注）精緻な思考を追求すると、それは正確かもしれないが、厚みも豊かさも実感もリアリティも伴わない無味乾燥なものになってしまうのである。

ではどうすれば、豊かな広がりを持ちリアリティのある、B 論理的妥当性の高い思考を行うことができるのかというと、ある思考対象の言葉と照らし合わせて繋げる知識要素のジョイントの部分とそれ以外の部分の意味内容を注意深く把握しながら論理を展開していくことに尽きる。ネコが文鳥と比べて大きな動物だとは言つても、「大きい」という意味内容で戦艦大和と繋げて、「ネコは戦艦大和に似ている。」などという論理展開に陥らないようにすることである。

同様に、秋の爽やかなお天気を表す時、「空一面に広がった『雲』」という表現ではなく、「空一面に広がった『うろ／＼雲』」という表現を選び取れるようにすることである。結局、豊かにかつ論理的に妥当性の高い思考を実現するためには、意味的に過不足の無い言葉の選択が全ての基本になる。そして、言葉とその言葉が持つ意味合いに関する知識・経験とセンスによつて、⑤注意深く意味を繋いでいくことが求められるのである。

〈波頭亮『論理的思考のコアスキル』より〉

（注）命題 — 判断の内容を言語で表したもの。

$A \neq B$ — 「AとBは等しくない」ということを表す。

誤謬 — あやまり。まちがい。

精緻 — きわめて細かいこと。物事についてとても詳しい様子。

問一 本文中の

A

、

B

 に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。【3点】(思・判・表)

A A しかし B したがって

I A さらに B すなわち

ウ A つまり B それでいて

エ A また B しかも

問二 — ①「適切な言語化の第一歩」の具体的な説明として最も適するものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。【3点】(思・判・表)

A 目の前で咲いている菜の花を見て、「花」「黄色い花」といった言葉を思い浮かべること。

I 目の前で咲いている菜の花を見て、「菜の花」という言葉でそれを認識すること。

ウ 目の前で咲いている菜の花を見て、「この菜の花は食用だ。」と思うこと。

エ 目の前で咲いている菜の花を見て、「この菜の花をおひたしたらおいしだろう。」と考えること。

問三 — ②「厄介な側面」とあるが、その説明として最も適するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。【3点】(思・判・表)

A 正確な言葉を探して選び取ったとしても、論理的思考の展開に支障をきたすことがある点。

I 正確な言語化を行っても、命題表現として成立させた時点で言葉に多義性が生じてしまう点。

ウ 多くの人が好ましく思っているものごとであっても、それに悪いイメージを抱く人もいる点。

エ 正確性に劣る言葉を選び取ってしまったとしても、必ずしも間違いとはいえないという点。

問四 — ③「自然言語の言葉の多義性は思考を行う上で極めて重要な性質である。」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。【3点】(思・判・表)

A さまざまな知識や情報を互いに照らし合わせることで、数学的思考が可能となり、論理的思考を容易に進めることができるから。

I 思考の対象と知識双方の意味内容の間に多様な結びつきの可能性が生まれ、豊かな意味合いを紡ぎ出していくことができるから。

ウ 言葉を対象として思考を進める際に、多くの人が共感・共有できる意味内容をイメージすることができ、正しい思考ができるから。

エ 論理的思考を展開する際の混乱や誤謬が事前に想定しやすくなるため、初歩的な誤りを避けた上で自由に考えることができるから。

問五 —④「論理的に精緻な思考を追求する」とあるが、そのことについて説明した次の文中の I、

II に入れる語句として最も適するものを、本文中から、 I については十四字で、 II については四字でそれぞれ書き抜きなさい。【3点×2】(思・判・表)

除しよとすべし。

I

して論理を展開することにより、思考の過程から

II

を厳密に排

問六 —⑤「注意深く意味を繋いでいく」とはどういうことか。その説明として最も適するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。【3点】(思・判・表)

A 考えるための材料として、意味を複数持たない言葉を厳選した上で、言葉と言葉を知識や経験を生かして結びつけること。

I 現実世界の事象が持つ意味内容と、自分の知識や経験が持つ意味内容のジョイント部分に注目して、使う言葉を選んでいくこと。

U それぞれの言葉の意味内容について、共通部分だけでなくそれ以外の部分をも十分に吟味した上で、言葉を接続させていくこと。

E 論理や推論を展開していくために用いる数式が、現実世界の正しい反映となっているのかどうかを、一つずつ丁寧に確認すること。

問七 本文の展開の説明として最も適するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。【3点】(思・判・表)
A まず論理的思考のあるべき姿を定義し、ついで言葉探しと論理の展開の違いについて考察して、最後に現実的な事象を対象とした論理的思考の望ましいあり方について述べている。

I まず論理的思考についての二つの対立した見解を提示し、ついで両者を比較することでそれぞれの特徴を明らかにして、最後に両者の長所を組み合わせた理想的な思考について述べている。

U まず言葉の正確性に関する一般的な見方を批判し、ついで論理的思考の観点から言葉の多義性の問題点を示して、最後に日常生活を営む上での論理的思考の可能性について述べている。

E まず論理的思考成立のための条件を挙げ、ついで言葉の多義性がもたらす思考の混乱と純粋な論理的思考の問題点を指摘して、最後に思考を正しく展開させる方法について述べている。

〔六〕 次の「話し合い」は、T中学校の生活委員である松永さん、三本さん、中丸さんが、春の交通安全通間に向けて「T中生活委員会だより」を発行するために協議をしている場面である。これを読んで、あとの各問いに答えなさい。【12点】

【話し合い】

松永さん 「昨日、この十年間で「交通事故全体件数」が減少傾向にあるというニュースを見たよ。そこでは「交通事故全体件数」に占める「自転車関連交通事故件数」の割合が、横ばいになっているとも言っていたんだよ。」

三本さん 「ということは、I ということになるね。」

中丸さん 「私は最近街の中を走る自転車を多く見かけるようになった気がするよ。今後、自転車関連交通事故件数は増えていくはずだよな。」

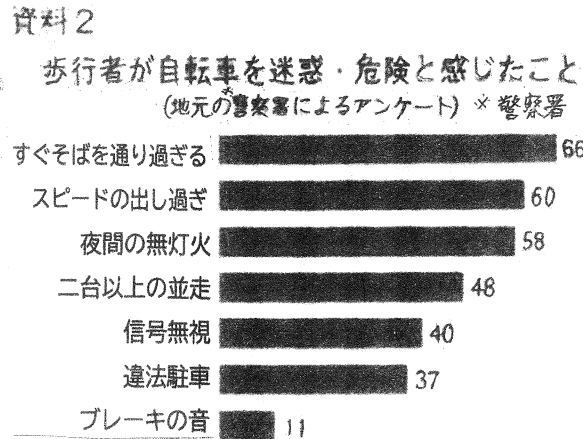
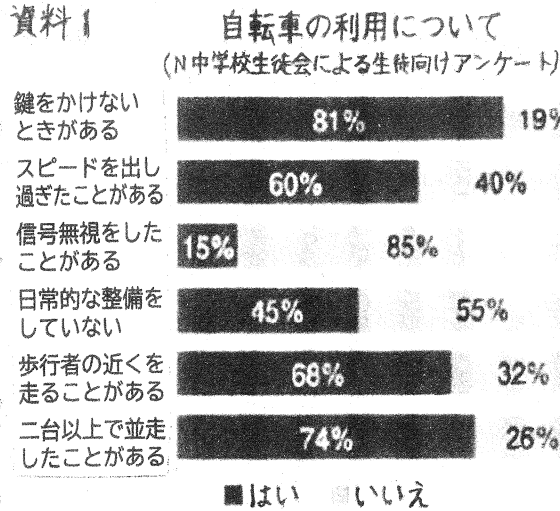
松永さん 「ちよつと待つて。①本当にそうなのかな。断言はできないと思うよ。」

三本さん 「T中にも自転車を使う人が多いから、「生活委員会だより」の最後には、自転車を運転するときの注意点を呼びかけてみようよ。」

松永さん 「ちよつとこの資料を見てもらえるかな。資料1と資料2を比べてみると、私たちの自転車の乗り方が、歩行者に危ないと感じさせる時があると気付いたよ。今回はこの点に注目してみたらどうかな。」

三本さん 「それでは、②資料1で「はい」と答えた項目と、資料2の項目を比較して、共通している項目の中から、割合の高い三つのものに絞って呼びかけよう。」

中丸さん 「いいね。そうしよう。」



複数回答

問一 I に入る内容として最も適するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。【3点】(思・判・表)

ア 交通事故全体件数と同様に、自転車関連事故件数も減少している。

イ 自転車関連事故件数は変わらず、交通事故全体件数は減少している。

ウ 自転車関連事故件数が、交通事故全体件数に占める割合は増加している。

エ 交通事故全体件数は減っていて、自転車関連事故件数は増加している。

問二 ①「『本当にそうなのかな。』と松永さんが言うのはなぜか。最も適するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。【3点】(思・判・表)

ア 中丸さんの意見は、確実な根拠が一つしかなく説得力が無いから。

イ 中丸さんの意見は、自分の経験を抽象的に述べているだけだから。

ウ 中丸さんの意見は、説明の順序を考えておらず論理的でないから。

エ 中丸さんの意見は、主観に基づいた推測にとどまっているから。

問三 次の【図】は、松永さんたちが作成した「T中生活委員会だより」のレイアウト(割り付け)である。②「資料1で『はい』と答えた項目と、資料2の項目を比較して、共通している項目の中から、割合の高い三つのものに絞って呼びかけよう。」という三本さんの提案に従って、次の空欄 II に入る生徒への呼びかけの内容を解答欄に合う形で五十字以内の一文で書きなさい。【6点】(思・判・表)

大丈夫かな？あなたの運転マナー

あなたの自転車、歩行者に
迷惑をかけていませんか？

N中生活委員会だより

号生活会
4月生員
委

アンケート結果

資料1
のグラフ

資料2
のグラフ

N中生徒のみなさんへ

イラスト

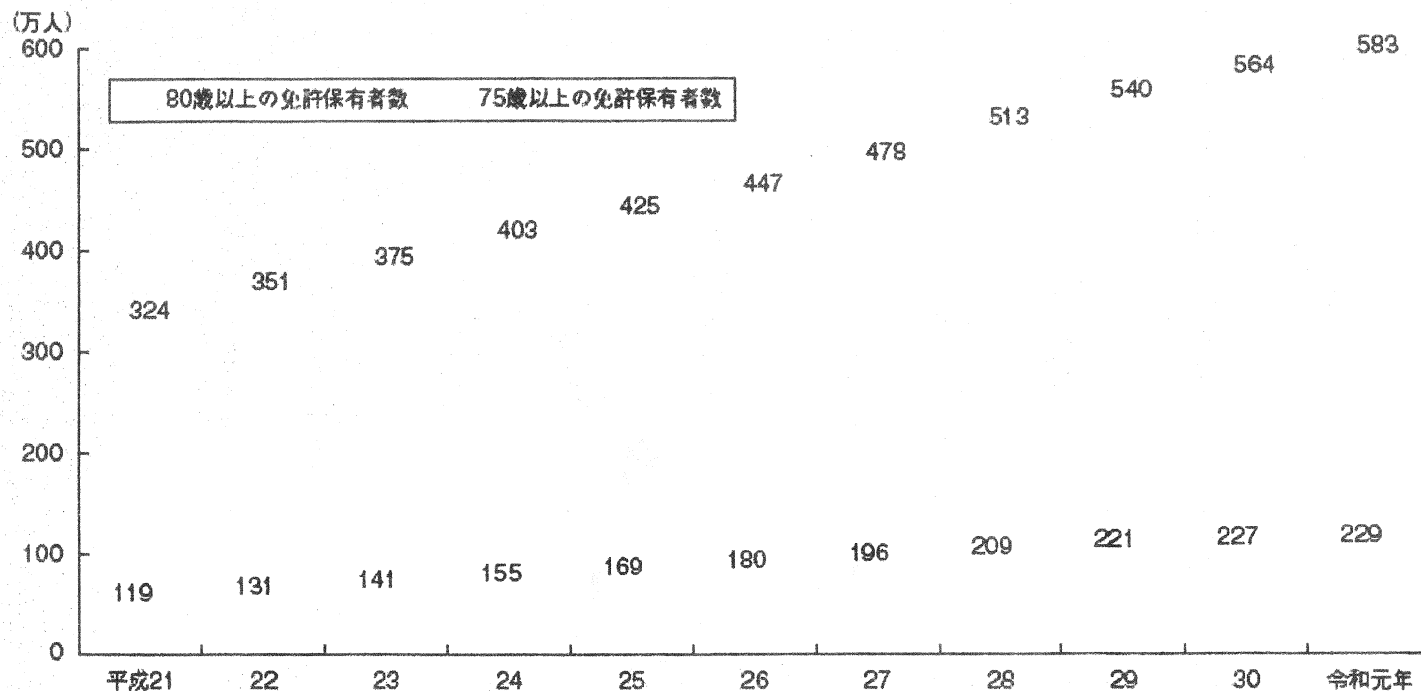
II

自転車を運転するときは、

II

七 次は、「高齢者の免許保有者数の推移」を示したグラフである。グラフから読み取れる内容を四十字から五十字以内の一文で説明しなさい。【8点】(思・判表)

75歳以上・80歳以上の運転免許保有者数の推移



- 注 1 警察庁資料による。
2 各年は12月末の運転免許保有者数である。